

2022 年 1 月 31 日

2021 年度 聖路加国際大学大学院看護学研究科  
修士論文

成人クリティカルケア領域初期キャリア看護師の  
看護実践能力評価のためのルーブリックの開発

Development of Rubric for Evaluation of Nursing Competency of  
Early Career Nurses in Adult Critical Care

20MN028

安丸 諒

## 要旨

【目的】成人クリティカルケア領域初期キャリア看護師の看護実践能力評価において指導者看護師とのコミュニケーションから看護実践能力向上に向けた課題を明確化するためのルーブリックを開発することである。

【方法】専門家会議と試行調査のプロセスを経てルーブリックを開発する記述的研究である。看護実践能力は日本看護協会の定義に基づき「ニーズをとらえる力」、「ケアする力」、「協働する力」、「意思決定を支える力」の4能力とし、ルーブリック素案は「集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー」の実践例をもとに作成した。専門家会議ではルーブリック素案の評価観点の内容妥当性確認と評価基準等の表現を検討した。その後、パネルの意見をもとにルーブリック素案を修正し、再度内容妥当性の確認を行った。さらに修正を加え、調査用ルーブリックを作成し、試行調査を行った。試行調査では表面妥当性や表現の明快さ等を確認した。試行調査の結果を踏まえ、パネルによる内容妥当性の確認を行い、ルーブリックを修正し、完成版ルーブリックを開発した。

【結果】専門家会議では、内容妥当性指標を使用して、内容妥当性を検討した。ルーブリック素案は19項目の評価観点で作成したが、妥当性のないものを削除し、12項目の評価観点となった。最終的に完成版ルーブリックの12項目の評価観点のうち9項目で内容妥当性を確認することができた。残り3項目の評価観点は内容妥当性がないと判断されたため、修正を加えた。その3項目の評価観点については内容妥当性を確認することができなかった。試行調査では初期キャリア看護師と指導者看護師1組に対し調査を行なった。その結果、ルーブリックの表面妥当性を確認することができ、ルーブリックを使用した相互評価で看護実践能力を評価することはできたが、学習課題の発見につながりにくいという課題が明らかになった。

【結論】ルーブリックでの相互評価が学習課題の発見や学習計画の立案につながりにくいという課題が明らかになったため、コーチングを基盤にした「課題発見シート」を作成した。完成版ルーブリックは「ルーブリックを使用するためのガイド」、「12項目の評価観点と3段階の評価基準をからなるルーブリック」、「課題発見シート」で構成された。今後の課題として、内容妥当性を確認できなかった3項目の評価観点について、内容妥当性を検討することと、対象者を増やして試行調査を行い、「課題発見シート」が看護実践能力向上にどのように寄与するかを明らかにしていく必要がある。